

タドルスフェア 導入事例

日世株式会社



複数工場間でのデータ一元管理

2010年4月15日
日世株式会社
品質保証部

目次

- 会社紹介
- 品質管理システム導入の経緯
- TADORS選定のポイント
- TADORS導入に関して
 - TADORS導入前と後
 - 全体計画と進捗状況
 - データ構築方法
 - データ運用方法、導入効果
 - システム構築時の問題点
- 今後の展開

会社概要

- 社名 日世株式会社
- 設立 昭和22年5月20日
- 資本金 4億950万円
- 代表者 代表取締役社長 田中 稔章
- 従業員 643名
- 事業内容
 - ソフトクリームに関連資材（コーンカップ・ミックス・機械類）の製造販売
 - 乳製品（ホイップクリーム、コーヒーフレッシュ）の製造販売
 - フルーツプレパレーション（フルーツ調整品）の製造販売
- 関連会社
 - 日世メリーランドカップ株式会社
 - 東京日世フードサプライ株式会社

企業理念

日世の原点 特色あるNo.1をめざす

日世はソフトクリームという得意な分野に特化し、No.1として認められてきました。しかし、この地位に甘んずることなく、これからも常に現状打破の改革や新しい分野の開拓に挑戦し、いずれの分野においても未来永劫“特色あるNo.1”をめざし続けます。

ソフトコミュニケーションで世界を結ぶ日世

美味しいソフトクリームやデザートをより多くの人に、安心して召しあがっていただきたいー、より魅力的なお店づくりをバックアップしたいーそんな思いを胸に、日世はすべての部門がひとつになって、より良い製品づくりに努めています。創業以来続くその努力と実績が、多くのお客さまからの信頼につながっています。

品質保証・工場拠点

■ 品質保証機関

■ 本社 大阪府茨木市



■ 東京支店 東京都品川区

■ 製造物

■ コーンカップ

- 枚方(大阪)工場
- 東京(神奈川)工場



■ フルーツトッピング

- 甲府(山梨)工場



■ ソフトミックス

- びわ湖(滋賀)工場



食品安全への取組

■ ISO・HACCP方式への取り組み

ISO9001への取り組み(びわ湖工場)



びわ湖工場

昨今の製品製造に関するお客さまの要求は、製品の「質」の高さと言うまでもなく、その製法、衛生的意識や環境、記録の残し方など、あらゆる「質」にまで広がっています。このようなお客さまの要求に応え、「質」の高い仕事を実行することが当社の理念に合致すると考え、ISO9001認証を取得しました。今後もISOの品質基準に従い、『お客さま本意、品質本意』の方針の下、お客さまに「質」の高い安全な製品をお届けしてまいります。

製品の安全に向けた取り組み ~HACCP方式の導入~

■日世の取り組み

日世ではお客さまに安全な製品をお届けするため、全ての工場においてHACCP方式を導入し、衛生管理を行っています。

また、工場内の施設や設備の衛生管理、使用する水や従業員の衛生管理などのいわゆる「一般衛生管理項目」についても、マニュアル・手順を定め実行しています。より清潔で衛生的な工場のもとで、HACCPに取り組み、お客さまに安全な製品をお届けしています。

食品安全への取組

■ ISO・HACCP方式への取り組み

■ びわ湖工場

- 滋賀県食品自主衛生管理認証制度取得（セーフドしが）

（参考URL：<http://www.pref.shiga.jp/e/shoku/01anzen/center/200shaccp.html>）

■ 概要

県内で製造される食品の安全性を確保するため、営業者による自主衛生管理の高度化を促進することを目的とした、滋賀県独自の認証制度です。エス・ハサップ（S-HACCP）とも呼んでいます。

■ 枚方工場

- 大阪版食の安全安心認証制度認証

■ （参考URL：<http://www.pref.osaka.jp/shokuhin/ninsyou/>）

■ 概要

飲食店や食品製造施設の事業者が日々行っている、基本的な衛生管理やコンプライアンス（法令遵守及び社会倫理に適合した行動）・危機管理の積極的な取り組みを評価し、一定水準以上にあると認められる施設を認証する制度です。



品質管理システム導入の経緯

■ 原料・商品情報の一元管理

- 各工場毎に製造している物が異なり、原料・商品管理を工場にて行っていた。
- 原料規格書フォーマットが工場毎に異なっていた。

■ 問合せ対応の迅速化

- 社外からの問合せ窓口は大阪本社、または東京支店であった為、不明部分があれば該当工場に確認後回答を行っていたので迅速な対応が困難だった。
- 昨今の原産地、賞味期限問題により問合せも増え、迅速な対応の必要性を感じた。

■ 規格書作成業務迅速化

- 規格書フォーマットの多様化と、提出頻度の増加により規格書作成に費やす時間が増加。
- eBASEの流通により、eBASE jr. を使用してデータを作成することが増え、データ作成に費やす時間が増加。

TADORS選定のポイント

■ パッケージ機能の充実

- 原料・商品マスタ管理
- 管理項目のカスタマイズ性
- テンプレート設定機能
- 規格書作成機能
- eBASE jr. 連携機能
- 詳細な検索機能

■ 価格

- 比較した他社システムより非常に安価

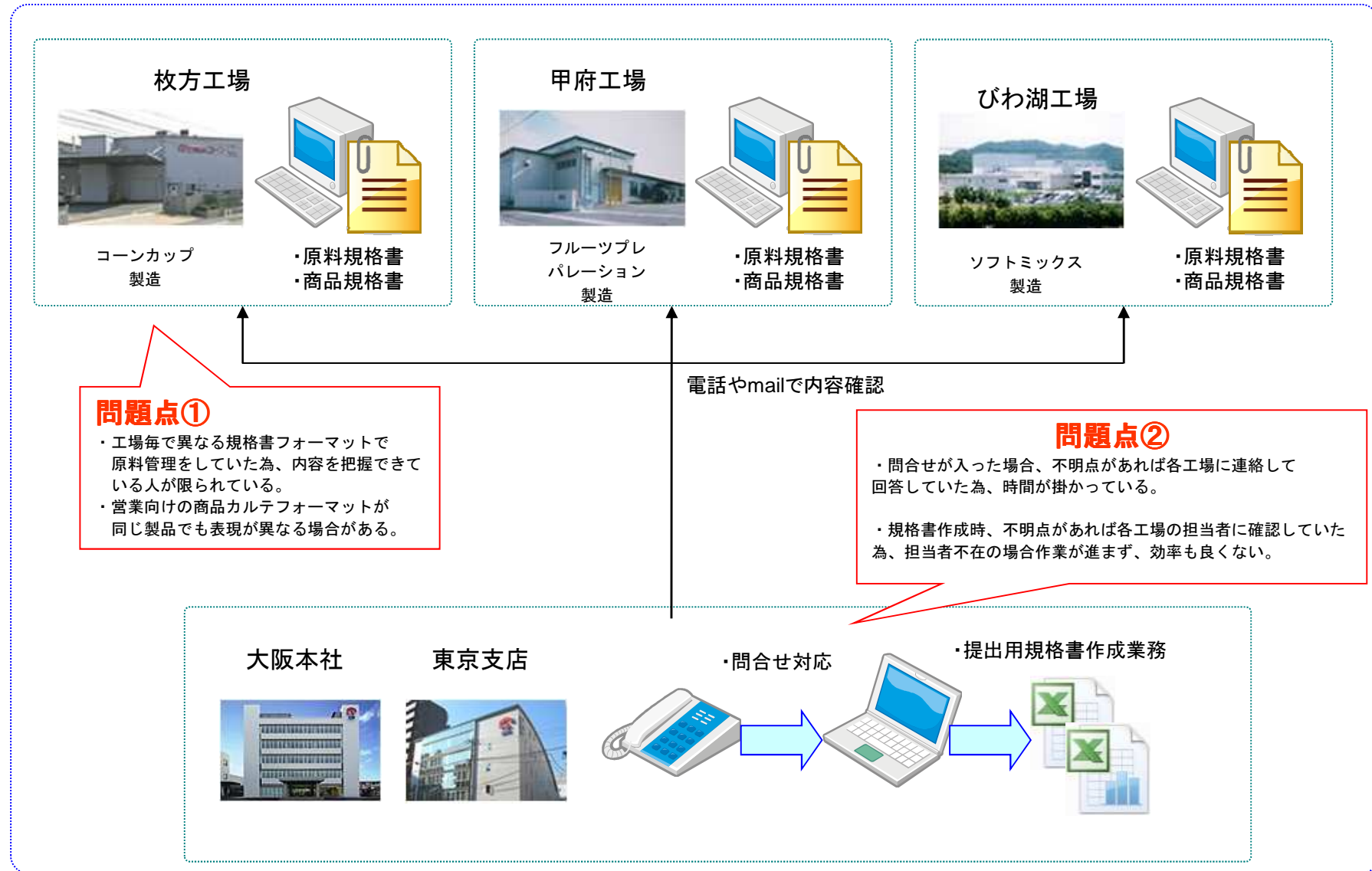
■ 他社システム A

- 特徴：費用が高価すぎ、自社では使いこなせないイメージ

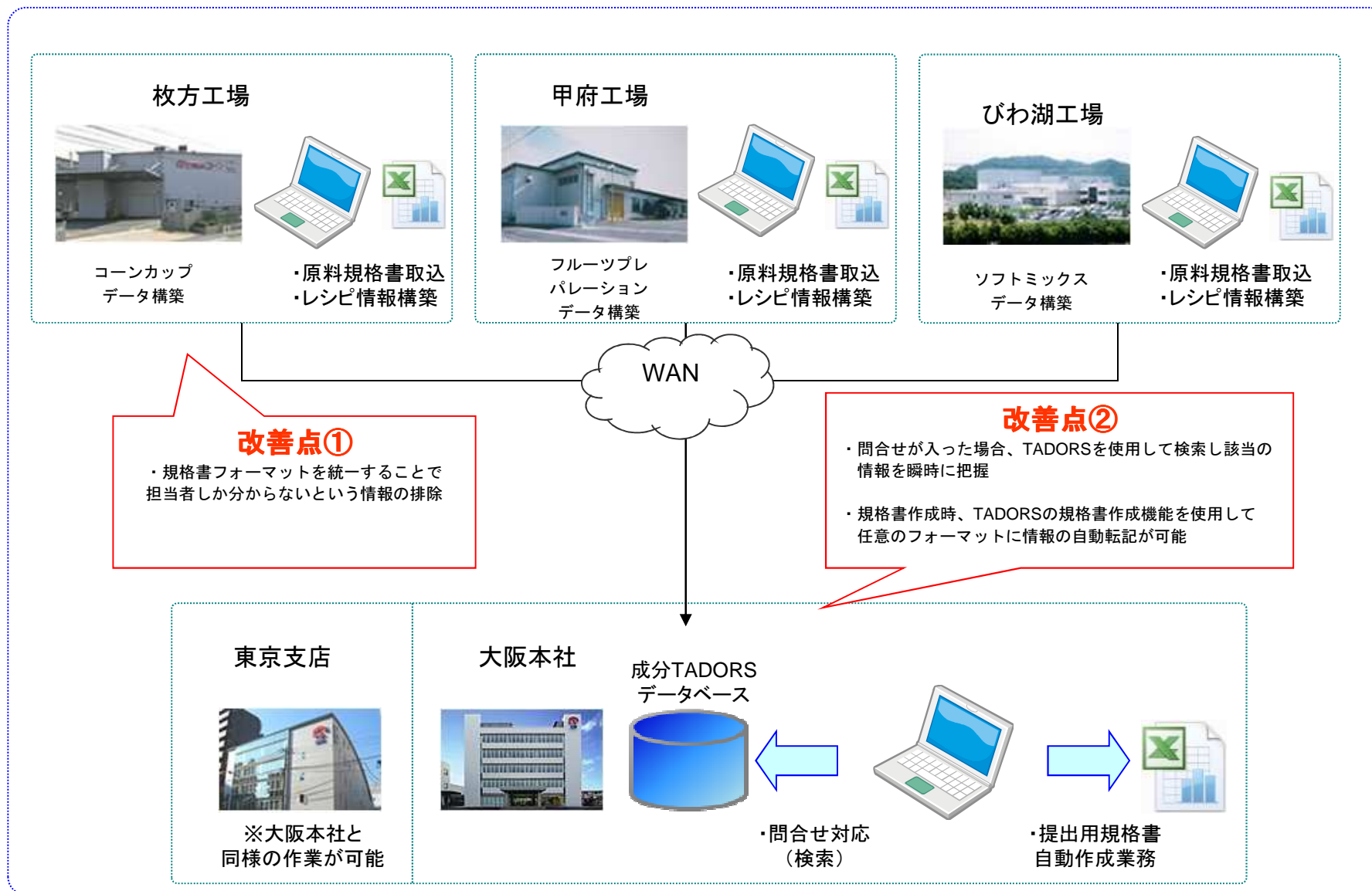
■ 他社システム B

- 特徴：規格書のフォーマットが決まっておらず自社の運用にあわなかった
： 項目の追加や帳票の追加は別途カスタマイズ費用が発生していた

TADORS導入前



TADORS導入後

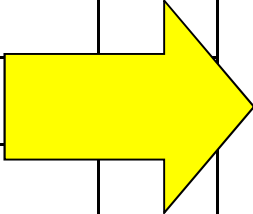


全体計画と進捗状況

N o	作業内容	担当部門	09/05	09/06	09/07	09/08	09/09	09/10	09/11	09/12	10/01	10/02
1	規格書フォーマット統一	本社	■	■	■							
2	規格書記入依頼	工場				■	■	■				
3	配合情報登録	工場				■	■	■				
4	荷姿登録	本社				■	■	■				
5	原料規格書取込	工場							■	■	■	
6	商品情報構築	本社							■	■	■	
7	外部向け情報の管理											
8	eBASEjr. 連携強化											
9	Web展開											

データ構築約
9ヶ月で完了

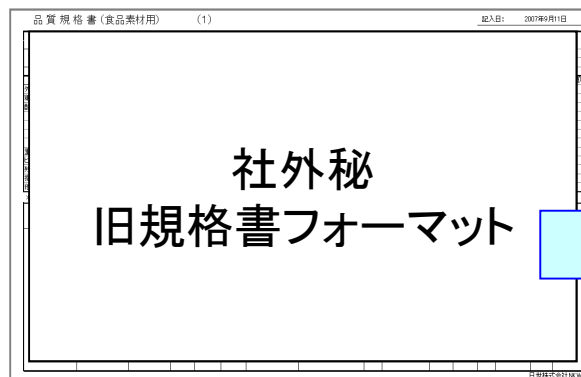
今後の課題



データ構築方法(本社・工場)

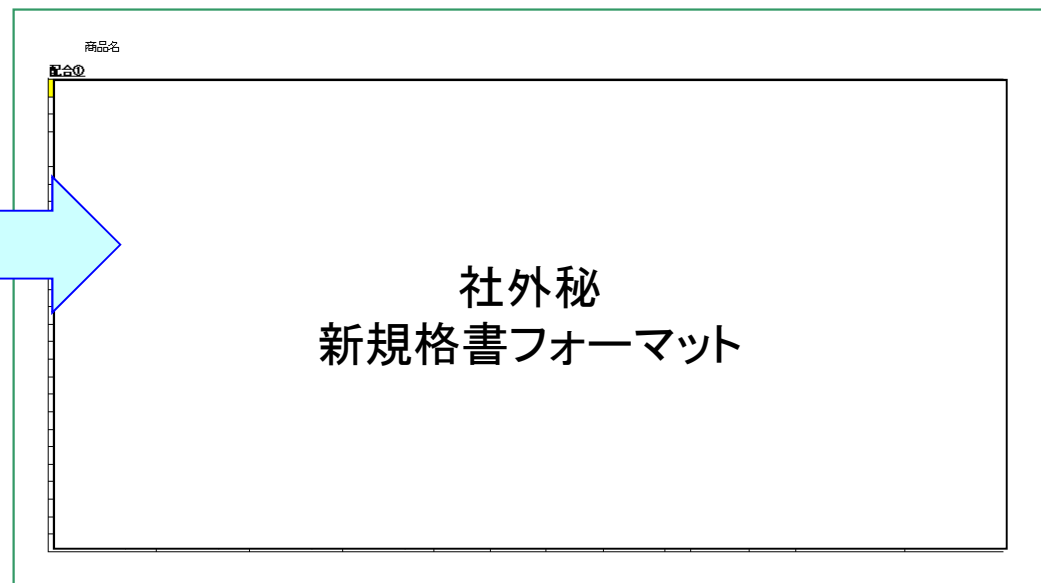
- 原料規格書の統一
- 新原料規格書の記入・回収依頼
 - 新原料規格書フォーマットにて仕入先様に記入・回収依頼

旧規格書フォーマット
(全2シート)



※工場毎に管理項目が異なる

新規格書フォーマット
(全4シート)



※シート数を増加させて、各工場共通の書式として使用

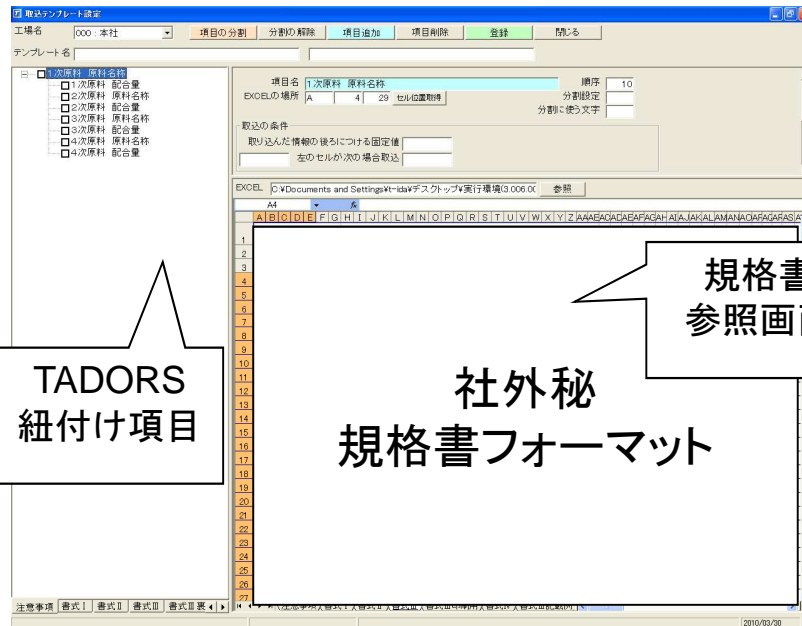
データ構築方法(本社)

■ 取込テンプレート作成

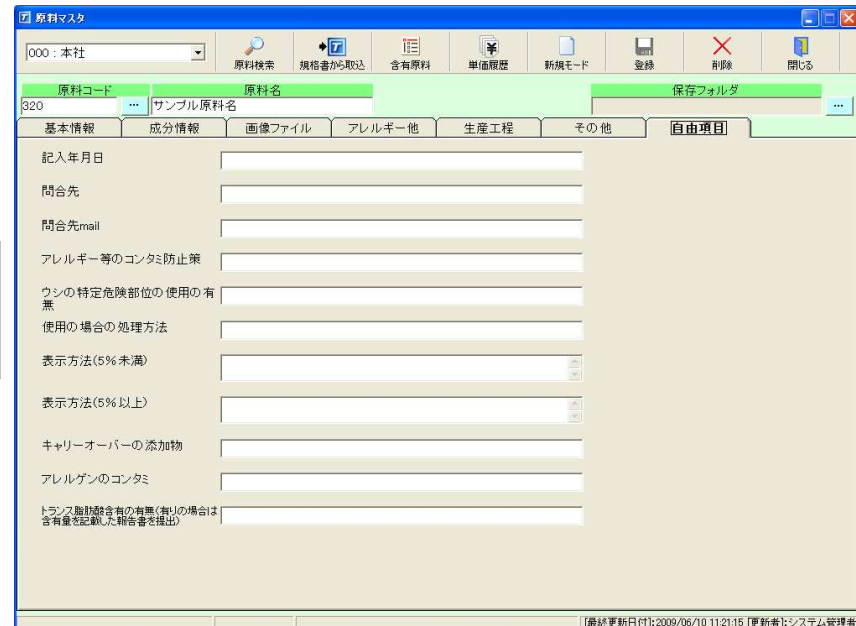
- 新原料規格書フォーマットとTADORSの管理項目の紐付け
- 日世独自の管理項目等はTADORSの自由項目マスタを使用して自社にて管理項目のカスタマイズ

- ・ 自社規格書フォーマットを使用してシステム化
- ・ 仕入先様にも今まで通りエクセルでの運用をしていただく事で運用を大きく変えることなくシステム化

・取込テンプレート画面



・管理項目のカスタマイズ



データ構築方法

配合情報の作成（工場）

- 事前に配合情報の登録
- 仕掛品や中間製品の管理も可能

荷姿・資材情報の登録（本社）

- 事前に荷姿・資材情報の登録

・サンプル配合情報 1次原料表示画面

原料設定画面

000: 本社

配合コード: 10031710 | サンプル商品

原料シリーズ | 二次原料

原料検索	仕掛品検索	簡易原料選択	簡易仕掛選択	原料を削除	用途名・物質名の転送	用途名に関連する物質名				
原料コード	原料名	原料区分	配合量	単位	ロス率	実配合量	換算配合量	配合率	使用目的	投入順
▶ 10031701	仕掛品A	仕掛品	200.0000	g	0.0000	200.0000	0.2000	44.8430		1
10031702	仕掛品B	仕掛品	200.0000	g	0.0000	200.0000	0.2000	44.8430		2
10031703	仕掛品C	仕掛品	12.0000	g	0.0000	12.0000	0.0120	2.6906		3
10031704	仕掛品D	仕掛品	17.0000	g	0.0000	17.0000	0.0170	3.8117		4
10031705	仕掛品E	仕掛品	17.0000	g	0.0000	17.0000	0.0170	3.8117		5
			合計	g		446.0000	0.4460	100.0000%		

2010/03/30

資材マスタ登録画面

登録 | 開じる

資材コード: 0906011546 | 自動 | 商品略号: | JANコード: | ITFコード: |

資材名: 容器(Ny, EVCH, PE, PE) | 有効容量: 容量: |

表示名: 容器(Ny, EVCH, PE, PE) | 使用量: 容量: |

仕様: | 形状: |

購入先: | シール方法: |

メーカー: | 段種: |

寸法: 単位: mm | 縦: 110 | 横: 80 | 高さ: 150 | 形式: |

重量: 重量: | 重量単位: | 詰め方: |

色: | 付属: |

入り数: | 印刷色数: |

賞味期限 | 印字: |

データ構築方法(工場)

■ 新原料規格書の取込(データベース化)

- 取込テンプレートを使用して回収した規格書をそのままTADORS内に取り込
- 複数購買をしている原料に関しては、原料を仕掛品として登録して、その構成原料として、複数原料を登録していた。

・サンプル原料情報

基本情報

原材料構成情報

システム構築時の苦勞した点

- 各工場社員の意識改革
 - 会社として品質情報一元管理の必要性を浸透させる事
- 社内運用の見直し
 - 原料規格書フォーマットの変更をした為、その内容の意図を部員、仕入先様に理解していただく事への対応
 - データ登録方法のルール決め
- データ構築方法
 - 詳細情報をTADORSの中で管理している為、外部に出す情報としては機密部分まで出てしまう為、出力後加工が必要となった

今後のデータ運用方法(本社機関)

- 各工場で個別管理していた情報の**一元管理の実現**
 - 情報共有化により、管理しているデータの信頼性担保
- **規格書作成業務の省力化**
 - 各工場で登録された配合情報を使用して提出用の規格書を自動作成
- **eBASEjr. データ入力業務の省力化**
 - 各工場で登録された配合情報を使用してeBASEjr. へデータ受け渡しによる、入力業務の軽減
- **問合せへの迅速対応**
 - 社内外からの各種問合せに対して、各工場が構築したデータから検索
 - お客様からの信頼性の確保

TADORSに期待する機能

- 構築したデータをW e b上から参照できるようにする。
 - 営業部員が商談中に必要な情報を取得し売上に貢献する事が出来る環境の構築
- eBASEjr. 連携機能強化
 - 社内上管理する情報と、外部向けの情報（表示ベースのデータ）を管理し、eBASEjr. に渡す情報は後者の情報を渡したい
- 業界標準システムとの連携
- お客様問合せ窓口での運用

タドルスフェア 導入事例

日世株式会社

ご清聴有難うございました。



無断での複製・転用・転載を禁止いたします